

令和元年6月21日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05148

研究課題名(和文) ケアネットワークと家族の親密性に関する国際比較研究：ライフコースの変容と再編

研究課題名(英文) Comparative study on Care-network and Intimacy of Family

研究代表者

宮坂 靖子 (MIYASAKA, Yasuko)

金城学院大学・生活環境学部・教授

研究者番号：30252828

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：デンマークでは、ケアのジェンダー化を回避し、両親による育児と家事の共有化を実現することにより、家族の親密性を確保している。中国では、専業主婦化が進展しているが、親族ネットワークと市場サービスの活用により、日本において社会問題となっている育児の孤立化を回避している。市場経済社会においては、「家事に対する愛情規範」は、育児が性別役割分業によって担われる際に生成、強化されると仮定できる。家族の親密性を維持したまま性別役割分業からの脱却を図るためには、家事に対する情緒的意味づけを変容させることが必要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年日本において、乳幼児のいる母親の就労率が上昇している。父親の育児・家事参加は徐々に進行してきているが、性別役割分業は依然として存在している。一方で親密な関係性の維持は個々人のウェルビーイングの観点からも重視されている。日本では家族の親密性の維持のためには専業主婦が必要であるとする認識が強いが、超少子高齢社会にあって男女双方のワークライフバランスを実現するためには、家族の親密性を維持しつつ、性別役割分業を流動化することが必要であり、そのための方策を提言している点で意義を有している。

研究成果の概要(英文)：In Denmark, the intimacy of family is ensured by avoiding gendered care and sharing parenting and housework between parents. In China, an increasing number of women are choosing to be a fulltime-mother. However, isolation of the parent has been prevented through the use of family networks and commercially available services. In Japan, parenting in isolation has been a social issue. It has been suggested that in a market economy, "norms of affection in connection to housework" are generated and strengthened when parenting (or caring) is performed through gendered roles. In order to reduce or eliminate the stereotyped gender roles while maintaining the intimacy of family, it is necessary to change the meaning of affectional attachment to do housework.

研究分野：社会学

キーワード：ケアネットワーク 親密性 家族 ジェンダー ライフコース 育児 国際比較 社会学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2010年代に入り、個人化・多様化が進展するなかで、家族の置かれた状況が大きく変化してきている。結婚規範、性別役割分業規範などが強固であった日本社会においても、近年は乳幼児をもつ母親の労働力率が上昇するなどライフコースが多様化してきているものの、超少子高齢社会の到来を回避する目処は立っていない。かつて共働き社会であった中国の都市部では「専業主婦化」が進み、一人っ子政策が転換されてもなお、少子高齢化は深刻度を増している。一方で、北欧に位置するデンマークでは、現在においても高い女性労働力率を維持しつつ、比較的高い合計特殊出生率を維持している。

少子高齢社会、個人化・多様化した社会においてもケアという人間の営みは必ず存在する。超少子高齢社会においてウェルビーイングの実現をめざしケア問題（育児と高齢者介護）を解決するためには、高い女性労働力率を維持し少子高齢化を回避している社会との比較研究を通して、その問題の原因を明らかにし、すべての人にとって「ケアされる権利/ケアする権利」と、親密な関係性が保障された社会を構築することが必要不可欠であると考えた。

2. 研究の目的

1. 各国（日本・中国・デンマーク）におけるケアネットワークのあり方を明らかにする。

各社会で子育てと高齢者介護が、誰により、どのようなネットワークの中で、どのような施設などの社会的資源を利用し行われているのかを明らかにする。また、将来親となる可能性のある大学生たちのライフコースとケアに関する意識を明らかにする。

2. 各国のケア役割やケア行為に付与された意味づけを明らかにする。どのような行為に対して「愛情のあらわれ」とみなす規範（愛情規範）を付与しているかを考察する。

たとえば、専業主婦家庭で家事労働者を雇用することに対する抵抗感は、中国では弱い、日本では強い。また、中国の都市部では「三歳児神話」が普及し専業主婦化が進行しているが、女性労働力率の高いデンマークには「二歳児神話」が存在している。家事労働を含めた家族内の役割や行為を分節化し、各々に情緒的規範（愛情規範）が作用しているか否か、作用している場合にはその具体的内容はどのようなものかについて明らかにする。

3. 各国のケアネットワークと男女のライフコース、およびケア役割に付与された情緒的規範、家族の親密性のあり方を比較検討し、各国の特徴と課題を明らかにするとともに、21世紀を迎えた日本社会のあり方を探る。

個々人あるいは家族成員それぞれの人権とウェルビーイングが保障され、かつ、個々人あるいは家族の親密性を維持しつつ、人間として生きていくうえで必要不可欠な「ケアされる権利/ケアする権利」が保障される社会のあり方を、意識・規範・制度の観点から模索する。

3. 研究の方法

(1) 施設訪問、ヒアリング調査、(2) インタビュー調査、(3) 質問紙調査の三手法を実施した。インタビュー調査等の結果をもとに質問紙調査の調査枠組みを作成し調査を実施した。

(1) 施設訪問、ヒアリング調査：【日本】保育所（公立・私立）、公立子ども・子育て支援センター、子育て支援NPO、高齢者介護・居住施設、地域における高齢者支援の公的・民間施設、【中国】幼稚園、早期教育塾、母親活動グループ、高齢者介護施設、【デンマーク】総合託児施設、コペンハーゲン市庁舎、マザーズグループ、介護付高齢者住宅

(2) インタビュー調査：育児中の母親対象（中国、日本、デンマーク）、育児中のカップル（デンマーク）、高齢者および高齢者介護者（中国、日本）

(3) 質問紙調査：大学生対象（日本、中国、デンマーク）、親対象（日本：母親、中国・デンマーク：母親、父親対象）。学生調査はデータクリーニングを終了し、データ分析を開始したところであり、親対象の調査はデータクリーニング作業中である。したがって、両者の分析は2019年度も継続して行う。

4. 研究成果

(1) 育児ネットワークと情緒規範

中国：社会主義中国では、急速な市場経済化、近代化により専業主婦化が進行し、都市部においては20-30歳の既婚女性の4割弱は無職となっている。昨今、1980年頃より見られた専業主婦化（専業主婦化）と異なる「専業主婦化」が進行している。1980～90年代に存在した「小学生神話」（小学生からは母の手で）は、1980～90年代に生まれた世代にとっては「三歳児神話」に変容した。専業主婦規範には、子育ては母親の手ですべきという「母親の手で規範」、愛情のある家族が幸せという「愛情ある家族規範」、欧米の科学的育児法の選好、早期教育の重視という特質がある。学歴社会である中国では早期教育による競争が低年齢化、激化、市場化しており、日本の三歳児神話と比較すると、業績達成主義的な傾向が強い。

ただし、中国においては、自己アイデンティティの形成において職業意識が比較的大きな影響を及ぼしており、「専業主婦は1つの職業である」「夫婦が平等であるためには妻に経済的収入が必要」という固有の意識が存在している。また、子どもの小学校入学などを機に再就職するライフプランを考えている人が多いが、近年は専業主婦がインターネットビジネスにより家庭と仕事を両立する選択肢もできた。

デンマーク：早期に母親を労働市場へ復帰させる政策をとっており、育児休業（親休暇）

期間は父母あわせて 32 週間となっている。実際には親休暇に有給休暇などを追加して子どもが 1 歳になる頃に復職するケースが多く、「ふたり稼ぎ手・ふたりケアラーモデル」が定着している。育児休業の取得率は、母親はほぼ全員、父親も 8 割余りである（2015 年）。育児期間については短いと思っている人が多く、理想とする育児期間は 1.5~3 年であり、三歳児神話ならぬ「二歳児神話」が存在していた。親たちは、複数のインフォーマルな育児支援ネットワークを持ち、場面に応じて使い分けていた。親族の育児支援は実親・義親が中心であるものの、ステップきょうだいなど多様で複層的な関係が活用されていた。また、マザーグループという母親の育児ネットワークがとくに第一子の育児中の母親の間で有効に機能していた。

（2）大学生のライフコースとケアに関する意識

中国：2017 年 11~12 月に大連市と名古屋市において、大学生を対象として実施した（有効回収票数：大連市 743 票、名古屋市 871 票。平均年齢中日とも 20 歳）。結婚願望は女性の約 5 割、男性の約 6 割にとどまり、女性の 24%、男性の 17%は子どもが欲しくないと回答している。親の就労のために 3 歳未満の子どもを施設に預けることへの抵抗感は、日本より中国の方が高く、三歳児神話は日本よりむしろ中国に存在していることがわかった。一方で、女性の約 7 割は、専業主婦家庭でベビーシッターや家政婦を雇用することを肯定しており、親族の育児支援や市場における育児サービスの利用と三歳児神話が並立している点に中国の特徴がある。ただし、祖父母の孫に対する教育の関わりについては 1/4 程度が否定的であり、一概に育児といっても、世話（ケア）と教育に二層化しており両者の支援意識の間には乖離が見受けられた。

高齢者介護に関して、大学生の老親に対する介護意識は高いが、デイケアサービスや家政婦の利用等多様な支援を活用しながら介護をすることを望んでいる。

デンマーク：2017 年 11 月にコペンハーゲン大学の学生 44 名を対象に実施した（女性 36 名、男性 8 名、平均年齢 22.5 歳。44 名中 39 名がデンマークのみの国籍保有）。9 割の学生が、結婚（非法律婚を含む）子どもを持つことに肯定的な回答であった。希望するライフコース（男性対象者には、将来のパートナーに望むライフコースを訊ねた）は、「子どもの成長に関係なく働き続ける」を選んだ者が女性・男性ともに最も多く、専業主婦希望者はおらず、出産の有無にかかわらず就業継続を希望する結果となった。共働きの条件としては、保育施設や保育ママなどの公共施設の利用を希望する者が多いが、自分の親または配偶者の親を希望する者もいた。

高齢者の扶養責任は、制度的には国家責任とされているが、親に介護が必要になった場合、施設への入所や、ヘルパー、デイケアなどの公共サービスの利用を希望する者が多いものの、「自分が介護する」や「きょうだいと協力しながら自宅で介護する」との回答もあり、必ずしも「親の介護 = 公的サービスの活用」とはいえないことが示唆された。

（3）高齢者介護ネットワーク

中国においては、子どもとの同居意識は低下してきものの、子どもに介護を期待する意識は残っている。都市部では年金制度、医療保険制度も整備されてきており、高齢者の経済的扶養については国と家族が大きな役割を果たしている。子どもからの親への手段的支援、および情緒的支援は比較的良好な状態であり、子どもからの手段的支援の内容は親と子どもの居住距離により違いがあるものの、情緒的支援の程度には差はみられなかった。親への介護は複数の子どもたちにより共同で行われるため、介護を通してきょうだい関係も密接になる傾向がみられた。高齢者のコミュニケーションの相手は家族のほか、地域組織や職場の元同僚など家族外にも広がり、家族のみならず地域、社会との関わりが増加してきている。都市部の高齢者施設に入居している高齢者は、世話や介護を受けて生活している人が多いが、医療面・経済面において満足度はあまり高くなかった。また、趣味よりも家族や友人との交流で生きがいを感じているが、周囲とのコミュニケーション不足に悩んでいる。

（4）ケアと情緒規範に関するインプリケーション

インタビュー調査データをもとに、デンマーク女性、中国有職母、中国専業主母を比較した結果、専業主母にもっとも親和的な意識を持っていたのは、デンマーク女性、次に中国専業主母、中国有職母であった。「1 歳未満の子どもを保育施設に預ける」ことを最もかわいそうだと思うのも、「愛情をもって子どもを育てていればフルタイム/パートタイムなどの就業形態は関係ない」という項目に最も否定的だったのもデンマーク女性であった。乳幼児をもつ女性の労働力率の高いデンマークの方が専業主母的メンタリティを有するという結果になった。しかし、他方で「家事をするのは愛情があるからだ」という家事への愛情付与意識は、中国専業主母がもっとも高く、次に中国有職母、デンマーク女性の順であった。実際の生活において、中国に比較して共働き率が高く、家事・育児を分担しているデンマークにおいて家事への愛情規範が弱いことがわかった。「育児に対する愛情規範」を維持しつつ、「家事に対する愛情規範」を存立させない社会が存在することは興味深い。このことから、市場経済社会においては、「家事に対する愛情規範」は、育児というケア役割が性別役割分業によって担われる際に生成、強化される可能性があることが示唆された。「育児に対する愛情規範」を維持したまま性別役割分業の脱却化（もしくは脱家族）を図るためには、家事に対する情緒的意味づけを変容させることが必要であると考えられる。

(5) 総括 - 育児というケアの観点から -

デンマークは脱家族化、脱市場化を推進した社会民主主義レジームにおいて、ケアのジェンダー化を回避し、夫婦(カップル)の育児と家事の共有化により家族の親密性を実現している。中国は、専業主婦化が進展するなど従来の家族主義レジームとは質的変容を遂げているが、親族ネットワークの活用と市場サービスの活用(市場化)により、日本で社会問題となっている育児の孤立化を回避している。育児というケアの状況を表1に要約した。

表1 育児の状況：3カ国比較

	家庭性	愛情規範		ジェンダー化 (女性化)	市場化	育児支援	
		育児	家事			親族ネットワーク	ケアと教育の乖離
デンマーク			x	x	x	/	x
中国			/ *	/ *			
日本					x	/	

注1) : 存在している / 効果的である、x : 存在していない / 効果的でない、 / : とxの中間程度に存在している / 効果的である

注2) 注2) *専業主婦家庭と共働き家庭で異なる

参考文献

Pei-Chia, L., 2010, " Culture of Carework, Carework across Cultures " Hall, J., Laura Rindstaff, L., Lo, Ming-Cheng (eds.), *Handbook of Cultural Sociology*, Routledge. (山本理子訳, 2012, 「ケアワークの文化, 文化をこえるケアワーク」, 落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性の親密性と労働』京都大学出版会, 37-54) .

5. 主な発表論文等

研究分担者には下線(実線)、研究協力者には下線(波線)を記入
〔雑誌論文〕(計 10 件)

青木加奈子、デンマークの家族政策と親子関係 子どもへの養育義務から考える「親」観、福祉生活デザイン研究、創刊号、2018、7-15、査読無。

<https://notredame.repo.nii.ac.jp/> (オープンアクセス予定)

山根真理、家族・ジェンダー 東海の家族・ジェンダーの構造的理解のために、東海社会学会年報、10号、2018、64-70、査読無。

宮坂靖子、家族の近代化・脱近代化と子育て ケアネットワークと情緒規範からのアプローチ、家族関係学、37巻、2017、25-35、査読無。

DOI : https://doi.org/10.24673/jjfr.36.0_? (オープンアクセス予定)

山根真理、育児援助ネットワーク研究の視点：地域と親族関係、日本家政学会誌、68巻 8号、2017、439-445、査読無。

DOI : <https://doi.org/10.11428/jhej.68.439>

宮坂靖子・青木加奈子、デンマークにおける育児役割と社会的規範としての情緒的意味づけ 2016年2月予備調査からのインプリケーション、金城学院大学人文・社会科学研究所紀要、20、2016、41-51、査読無。

https://kinjo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=918&item_no=1&page_id=13&block_id=17

山根真理、名古屋の子育てネットワーク「まめっこ」、東海社会学会年報、8、20-26、査読無。

磯部香・李東輝、日中の現代家族・子育て研究動向、東アジア日本語教育・日本文化研究、19巻、2016、253-266、査読有。

李東輝・磯部香、中国都市部における高齢者施設入居者の生活意識と施設の経営課題 大連市での調査をもとに、東アジア日本語教育・日本文化研究学会学会誌、19、2016、551-466、査読有。

研究協力者による雑誌論文

李東輝、中国都市部における高齢者の社会参加をめくって、大学外語研究文集(長春出版社)、20巻、2019(刊行予定)、査読無。

李東輝、日本における高齢者の余暇生活をめぐって 北九州市での調査をもとに、日本文化論業(論文集:大連理工大学出版社、7巻、2018、306-319、査読有。

〔学会発表〕(計 27 件)

宮坂靖子・山根真理・青木加奈子・磯部香・李東輝・鄭楊、高齢者介護規範と専業主婦規範からみる中日家族の変容 中日大学生に対する意識調査をもとに、比較家族史学会 中国社会科学院共催北京研究大会(国際学会)、2019年9月21日~22日予定。

宮坂靖子、家族の近代化・脱近代化と子育て ケアネットワークと情緒規範からのアプローチ、一般社団法人日本家政学会家族関係学部第37回家族関係学セミナー、2017年10月21日(公開シンポジウム「家族/家庭のリアリティを多角的に考える 生活

者としての女・男・子どものいきざまを問い直す」)、ホテルビリナリオ嵯峨嵐山(京都市)。

青木加奈子、デンマーク社会における子育ての実態と子育て観 子育てにかかわるのは誰か、第27回日本家族社会学学会大会、2017年9月9日、(国際セッション「ケアネットワークと親密性 - 中国・デンマーク・日本を対象とした国際比較からのインプリケーション」)、京都大学(京都市)。

宮坂靖子、ケアネットワークと情緒規範の国際比較・試論 中国・デンマーク・日本の育児に付与される意味、第27回日本家族社会学学会大会、2017年9月9日(国際セッション「ケアネットワークと親密性 - 中国・デンマーク・日本を対象とした国際比較からのインプリケーション」)、京都大学(京都市)。

磯部香・黄一峰、中国における家庭教育とジェンダー、第5回中日韓朝言語文化比較研究(国際シンポジウム)、2017年8月19日、延辺大学(中国吉林省)。

磯部香、グローバル化する早期教育の発展と趨勢 日本の早期教育を事例として、北京億嬰天使教育咨询有限公司10周年招待講演・中日韓パネルディスカッション(国際学会)(招待講演)、2017年1月5~6日。

青木加奈子、デンマーク社会における仕事と子育ての“両立”実態 都市部在住の子育て世帯への聞き取り調査から、公開研究会「ケア・ジェンダー・生基盤」の現在、2016年12月23日、刈谷市中央生涯学習センター(愛知県刈谷市)。

磯部香、早期教育からみる現代中国の子育て、公開研究会「ケア・ジェンダー・生基盤」の現在、2016年12月23日、刈谷市中央生涯学習センター(愛知県刈谷市)。

宮坂靖子、「ケアと親密性」科研プロジェクトの概要、公開研究会「ケア・ジェンダー・生基盤」の現在、2016年12月23日、於刈谷市中央生涯学習センター(愛知県刈谷市)。

青木加奈子・宮坂靖子、デンマークにおける出産・育児休暇制度の歴史と現状：その1、(一般社団法人)日本家政学会家族関係学セミナー第36回大会、2016年10月9日、尚絅学院大学(宮城県名取市)。

青木加奈子・宮坂靖子、デンマークにおける出産・育児休暇制度の歴史と現状：その1、(一般社団法人)日本家政学会家族関係学セミナー第36回大会、2016年10月9日、尚絅学院大学(宮城県名取市)。

宮坂靖子・青木加奈子、デンマークにおける育児と情緒規範に関する予備的考察 2016年調査報告：その2、(一般社団法人)日本家政学会家族関係学セミナー第36回大会、2016年10月9日、尚絅学院大学(宮城県名取市)。

磯部香、現代中国における早期教育の浸透と子育ての状況 量子化と激化する競争教育現象を中心に、(一般社団法人)日本家政学会家族関係学セミナー第36回大会、2016年10月9日、尚絅学院大学(宮城県名取市)。

研究協力者による学会発表

鄭楊、中国都市部の子育て支援と世代間関係、比較家族史学会第65回春季研究大会(「世代関係」シンポジウム)、2019年6月15日~16日予定、お茶の水女子大学(東京都文京区)。

鄭楊、中国都市部家族における母親規範のロジック 専業主婦は交渉委で、専業主婦は従属的、中日社会学学会2019年会、2019年6月1日~2日予定。

李東輝、中国少子化の原因とその対策について 女性の結婚・出産意識を中心に、：第二回 東アジアにおけるジェンダー視点の女性研究シンポジウム(国際学会)、2018年11月25日、大連外国語大学(中国遼寧省大連市)。

李東輝、中国都市部における高齢者の介護と家族関係をめぐって 大連での調査を中心に、中国都市部における高齢者の介護と家族関係をめぐって、2018年8月、大連大学(中国遼寧省大連市)。

李東輝、中国都市部における母親の育児ストレスについて 学齢期前の子どもの母親を中心に、中国社会学学会(2018年年会)、2018年7月、南京大学(中国江蘇省南京市)。

鄭楊、真育童模式与新“母職”的誕生、0-3歳嬰幼兒託幼服務工作 家庭平衡論壇、2018年4月29日。

李東輝、日本における高齢女性の社会参加について 北九州市での調査を中心に、東北亜女性視覚国際検討会(東アジア女性視点の国際セミナー)(国際会議)、2017年12月23日、大連外国語大学(遼寧省大連市)。

⑲ 鄭楊、白天愁論文、晚上愁嫁人：女研究生的煩惱(「女子院生の悩み - キャリアウーマンになる、「良妻賢母」になる?」)、東北亜女性視覚国際検討会(東アジア女性視点の国際セミナー)(国際会議)、2017年12月23日、大連外国語大学(遼寧省大連市)。

⑳ 鄭楊、中国都市部における「スーパーママ」という新母親像の誕生 育児資源のWeChatママグループの調査から、第27回日本家族社会学学会大会、京都大学(京都市)、2017年9月9日、(国際セッション「ケアネットワークと親密性 - 中国・デンマーク・日本を対象とした国際比較からのインプリケーション」)。

㉑ 李東輝、中国都市部における高齢者のケアネットワークと介護の課題 大連での調査を中心に、第27回日本家族社会学学会、2017年9月9日、(国際セッション「ケアネットワークと親密性 - 中国・デンマーク・日本を対象とした国際比較からのインプリケーション」)、京都大学(日本京都市)。

- ②4 鄭楊、中国都市部の専業主婦に関する考察、中日社会学会(国際学会)(招待講演)、2015年7月15-17日、南京大学(中国江蘇省南京市)
- ②5 磯部香、中国東北部における保育実態と若者の子育て観、第19回東アジア日本語教育・日本文化研究学会(国際学会)、2015年8月22日、西南学院大学(福岡県福岡市)。
- ②6 李東輝、中国都市部における高齢者施設入居者の生活意識と施設の経営課題、東アジア日本語教育・日本文化研究学会(国際学会)、2015年8月23日、西南学院大学(福岡県福岡市)。
- ②7 磯部香、現代中国における若者のケア意識とその実態 日中比較による子育て観を中心に、第7回中日韓文化教育研究フォーラム(国際学会)、2015年10月31日、大連外国語大学(中国遼寧省大連市)

〔図書〕(計 3 件)

北欧文化協会、バルト=スカンディナヴィア研究会、北欧建築・デザイン協会編、北欧文化事典、2017、丸善出版、総 650 ページ、担当箇所：青木加奈子、デンマークの女性の社会進出と出生行動、338-339。

松岡悦子編著、小浜正子、菅沼ひろ子、日隈ふみ子、安井眞奈美、青木加奈子他7名、子どもを産む・家族をつくる人類学 オールタナティブスへの誘い、2017、勉誠出版、総 309 ページ、担当箇所：青木加奈子、女性のライフコースの日本・デンマーク比較、295-303。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 記載事項なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：山根 真理
ローマ字氏名：YAMANE, mari
所属研究機関名：愛知教育大学
部局名：教育学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：20242894

研究分担者氏名：青木 加奈子
ローマ字氏名：AOKI, kanako
所属研究機関名：京都ノートルダム女子大学
部局名：現代人間学部
職名：講師
研究者番号(8桁)：30737531

研究分担者氏名：磯部 香
ローマ字氏名：ISOBE, kaori
所属研究機関名：奈良女子大学
部局名：アジアジェンダー文化研究センター
職名：特任助教
研究者番号(8桁)：30786158

(2)研究協力者

研究分担者氏名：李東輝
ローマ字氏名：LI, donghui
所属研究機関名、職位：大連外国語大学、教授

研究分担者氏名：鄭 楊
ローマ字氏名：ZHENG, yang
所属研究機関名、職位：哈爾濱師範大学、准教授